

# 令和8年度第1回コンプライアンス委員会議事録

期日 令和8年5月19日(火)

場所 静岡県立伊豆の国特別支援学校 会議室

## 1 校長あいさつ

- ・法令遵守と不祥事根絶：公務員としての倫理観を強く求められる中、単に「あれはダメ」と禁止するのではなく、全職員によるグループワークやロールプレイ研修（性暴力発生時の初動対応など）を通じて風通しの良い職場づくりを目指す。
- ・背景にある心理的要因：不祥事を起こしてしまう教職員の背景には「抱え込み」や「孤独感」があると言われている。そのため、教員同士が本音で語り合い、つながりを作る環境（働きやすさ・やりがい）に重点を置く。

## 2 委員からの提言・事例紹介

- ・パワハラ・不祥事対策として「サンキューカード」等で評価を可視化し、隠し事のない環境を作ることで不祥事を防ぐ。
- ・働き過ぎによるメンタル不調を防ぐため、管理職による日々の声かけや見守りをする。
- ・リーダーの熱意や学校の方向性を、全教職員が同じレベルで共有することが不可欠。
- ・トラブル発生時に「どこで軌道修正できたか」をグループで検証し、個人に落とし込む月1回の場合が有効。
- ・入職時の意識マッチングとして、初期段階で学校の経営方針と本人の意識を擦り合わせ、早期退職やトラブルを未然に防ぐ。
- ・報告ルートと組織的対応のために、報告者の保護（守秘・窓口機能）の徹底と、理不尽なクレーム等に対する組織的な対応力を注視する。

## 3 各学部における「関係づくり」への具体的取り組み

- ・小学部（大人数での関係づくり）：職員が多いため、学部会の最後にランダムなグループでの雑談時間を意図的に設置。普段から話しやすい関係づくりに取り組んでいる。
- ・中学部（保護者との関係・ツールの使い分け）：案件に応じた連絡手段（文字・電話・対面）の使い分けと丁寧な関係作りで、保護者と学校が相互に意見し合える環境を目指している。
- ・高等部（卒業後を見据えた連携）：卒業後に社会へ出るため、保護者だけでなく、福祉課や相談支援事業所など多くの外部機関と繋がる。生徒の情報を密に共有し、保護者に寄り添いながら一緒に卒業後を考えていく関係づくりを意識している。

## 4 校長による総括と今後に向けて

- ・「つながり」の見直し：学校側の発信だけでなく、「地域からどう見られているか」「保護者が何を求めているか」という相手側の視点や本音を確実に押さえる。
- ・情報の展開：サンキューカードの事例や、ヒヤリハットを事故防止（キラリホット）へ繋げた経験を参考に、集まった情報を全員の安心のために展開していく。
- ・初動の仕組みづくり：トラブル発生時に教員が迷わず動けるよう、「誰に、どの順番で、何を伝えるべきか」という初動体制を端的に明確化する。